

はじめに

実際に投資をしようと思ったら、どういうことに気をつけないといけないのでしょうか。

1巻を読んだみなさんは、投資とはどういったものかという、基本的なしくみを理解できたと思います。投資はみなさんの将来の可能性を拓げるもので、ギャンブルではありませんが、それでも必ずリスクが伴います。

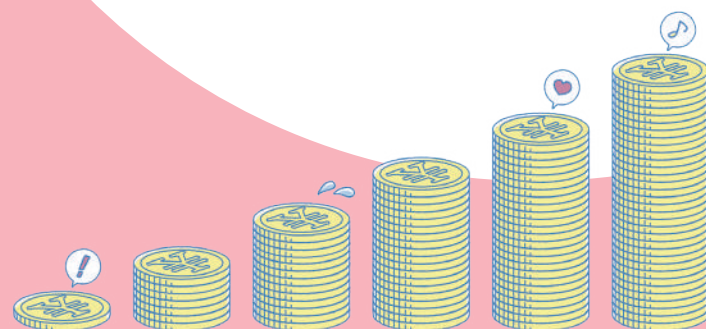
リスクを最小限にするには、どういったリスクがあるかを学ぶことが必要です。人の説明をうのみにせず、リスクの度合いを自分で判断することも重要です。必要な情報を集め、さまざまな角度から検討し、決断できるようになりましょう。

また、投資にはコストもかかります。コストはあらかじめ知ることができるので、きちんと調べることが大切です。

この巻では、投資にはどのようなリスクがあるかを中心に学んでいきましょう。

監修 東京学芸大学教育学部生活科学講座 准教授

藤田智子



- 本書の内容や情報は製作時点（2022年10月）のもので、今後変更が生じる可能性があります。
- 本書は金融商品の種類や特徴について説明していますが、実際の投資や金融商品の売買などを推奨するものではありません。
- 実際に投資を行う場合は、取引先の証券会社などで内容を確認、検討の上、ご自身の責任と判断で行うようお願いいたします。

もくじ



はじめに…………… 2

①投資はとても怖いもの？………… 4

②どこに投資したらいいの？………… 8

③投資のリスクとリターン…………… 12

④どうして価格は変動するの？…… 16

ひと休みコラム
投資そもそも物語…………… 20

⑤長期投資でじっくり増やす………… 22

⑥商品を組み合わせる分散投資…… 26

⑦積立投資で定期的に投資する…… 30

⑧絶対にもうかる投資はない………… 34

さくいん…………… 38

エピローグまんが
投資は危ない？…………… 39



①投資はとてもこわいもの？

投資によくないイメージを持つ人は少なくありません。

まずはその思い込みや誤解について考えてみましょう。

「投資」と聞いただけでこわいと思ってしまう人へ

このシリーズの1巻を読んだ人は、投資の基本的なしくみが理解できたと思います。ですが、あなたの周囲には投資の悪いイメージだけで、「投資はこわい」「だまされそう」といった、ネガティブな考えを持っている人がいるかもしれません。

残念ながら、金融教育が進んでいなかったこれまでの日本には、投資についてのよくないイメージが社会に根強く残っています。「投資は、資産運用の才能があったり、もともとたくさんお金を持っていたりするごく一部の人がやることで、ふつうの人は預貯金するべきだ」という意見も少なくありません。

でもそれらは、本当に正しい考え方なのでしょうか。投資にまつわるさまざまな疑問について考えてみましょう。

疑問①

ものすごく損をしてしまう？

投資にはリスクがあるので、ニュースで見ると大きな失敗をする可能性もあるでしょう。でも、なるべくリスクを減らしながら投資をする方法はたくさんあります。しっかりと知識を身につけましょう。



疑問②

だまされて大変なことになる？

「この銘柄に投資すれば絶対もうかる」といった話を耳にする機会があるかもしれません。しかし、「絶対もうかる」投資はありません。投資についての正しい知識を持ち、甘い言葉に振り回されないことが重要です。



疑問③

お金のことばかり考えてしまう？

そう考えてしまうのは、投資の目的が「お金を増やす」ことだけになっているからかもしれません。社会の発展に貢献できたり、世の中や経済の動きがよく見えるようになったりする、投資のよい面にも注目しましょう。



疑問④

才能のある人しかできない？

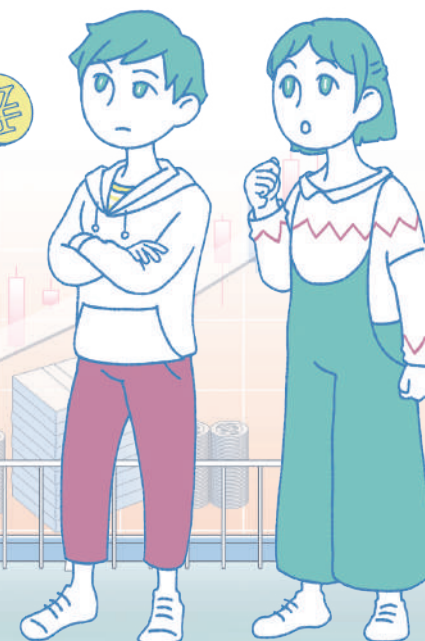
よく「投資の神様」「天才トレーダー」といわれる投資家がメディアに登場しますが、そうした人たちの多くが、実は投資の基本を学んだ上で、地道な努力を続けています。失敗も経験しています。天才というよりは努力家であり、なぜ失敗したか、次にどうすればいいかをしっかり検証できる人なのかもしれません。



疑問⑤

お金持ちしか投資はできない？

投資をする際、お金を持っている人が有利なのは確かですが、投資信託は100円から購入できますし、決してお金持ちにしかできないものではありません。大切なのは投資に使えるお金と使えないお金をしっかり分けて投資を行うことです。



リスクにはさまざまな種類がある

投資のリスクとは「リターンが予測できない度合い」を表すと説明しましたが、リスクの種類、つまり投資をしていて「リターンに影響を及ぼす予測しにくいこと」とは、一体なんでしょう。

例えば、株価がこの先上がったたり下がったりすることを「価格変動リスク」といいます。株式投資は振れ幅が大きめでリターンの予測がつきにくい

ので、価格変動リスクが高いといえます。

「価格変動リスクが高いものはこわくて投資したくない」と思うのであれば、株式投資は避けて、価格変動リスクの低い、預貯金や債券投資をした方がいいでしょう。

そのほかにもいくつかのリスクがあります。リスクの高さは投資の種類や銘柄などによって異なります。

価格変動リスク

金融商品の価格は、常に変動しています。価格が変動する要因には、市場の変化による「市場リスク」と、発行元の会社の業績の変化などによる「個別リスク」があります。

市場リスク

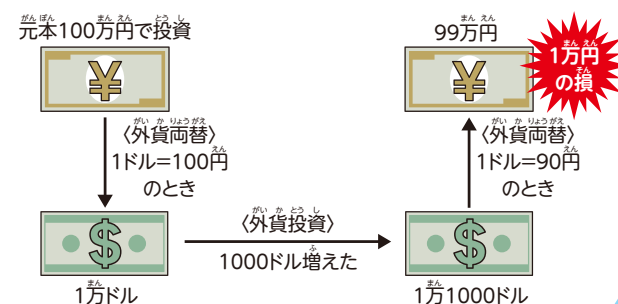
市場で売買されることによって価格は変動します。会社の業績はいいのに、市場の動きによって価格が下がることがあります。

個別リスク

ふつう、会社の業績が下がると株価は下がります。会社で発生した重大な事故や不祥事も株価に影響を与えることがあります。

為替変動リスク

外国の通貨で運用される(外貨建て)投資商品は、為替レート(外国為替相場)の影響を受けます。例えば運用した結果、利益が出て、日本円に換えたら元本を下回って損をする可能性があります。円に換えるタイミングがとても大切です。



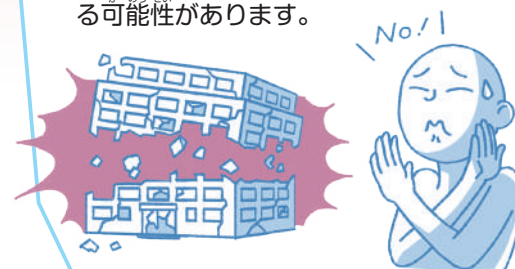
流動性リスク

投資市場で取引が成立しないことがあります。例えば株式の場合、売りたい銘柄があっても、買い手がなければ取引は成立しません。市場に出回っている株式の量や取引の量が少なく、人気のない銘柄で起こる可能性があります。



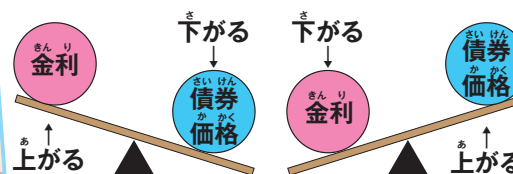
信用リスク

発行元の業績が極端に下がったり、倒産したりすると、契約した約束が守られないことがあります。例えば債券(社債)の場合、発行元の会社の業績が下がると利息が支払われなくなったり、倒産すると満期に元本がもどってこなかったりする可能性があります。



金利変動リスク

金利(P.16)は常に変動しています。金利の変動の影響を受けやすいのが債券です。債券の場合は一般的に、金利が上がれば価格が下がり、金利が下がれば価格が上がる傾向にあります。



カントリーリスク

例えば災害や戦争など、投資先の国の政治や経済状況の変化で、投資市場が混乱すると、投資した商品の価格に影響を受けます。外国の金融商品に投資するときは、発行元の国の政治や経済状況を把握しておくことが重要です。

